

北京+20にむけて 見直し、そして新たな課題

2014年7月16日

於:内閣府講堂

報告者:平松昌子

国際婦人年連絡会/BPW連合会

国際婦人年連絡会

- **創立** = 1975年 市川房枝さんらの提唱で、NGO女性団体に結成。
- **目的** = 婦人年のスローガン「平等・開発・平和」の実現に向けて活動。
- **活動** = 5年ごとに日本大会を開催。
- **合意** = 活動は加盟団体の**コンセンサス**によって決定。

北京行動綱領の 実施状況見直し作業は・・・

- **国連では、CSWが** 毎年の会合で12領域から1～2項目をとりあげ各国での進捗状況を審議し、実施のための課題を提言してきた。
- **日本では、NGOとして、国際婦人年連絡会が、**(1975年メキシコ会議以降)
5年毎に「NGO日本女性大会」を開催し
 - ①女性たちが直面する課題について
 - ②解決のための目標を掲げ
 - ③提言や要請などの活動をしてきた

NGO日本女性大会でのテーマ

※ 1975から1989までは、「連帯と行動」に取りまとめ1989年に出版

- 1990** = 無くそう男女の格差、強めよう女性の力
(この大会で2000年に向けて民間行動計画を作成)
- 1995** = 21世紀に向けて 95NGO日本女性大会(北京会議をふまえて)
- 2000** = 男女平等／開発／平和、女性たちの更なる前進
- 2005** = ジェンダー平等と平和な社会を目指す
- 2010** = ジェンダーギャップ解消への挑戦 貧困・格差のない平和な社会を
(この大会で行動緒目標を設定)

1990年 民間行動計画→委員会別に役割を担当

- **政策方針決定**→議会を含むあらゆる分野で女性の比率を高める
- **労働**→賃金をはじめとする女性の格差解消を図る
- **家族福祉**→出産・育児・介護での女性の負担解消へ
- **教育・マスメディア**→教育の現場でのさまざまな軋轢や現状改善
- **平和**→(当初は平和。環境・開発一つのくくり)その後
- 環境及び国際/開発がわかれ、憲法に関する単独の活動が加わった

2010年 行動目標を設定

- ジェンダーギャップ解消のために(A, B, F, G, H, I, J ……)
- 平和維持のために(D, E)
- 環境政策への提言(K)
- 医療・福祉問題での研究と提言(C)
- 国際活動

※ (内)は行動綱領12項目のAからLに対応

12領域で日本が抱えている課題 〈ジェンダーギャップ〉

- **A= 貧困**→女性の貧困化は特に高齢者で、拡大する傾向
- **B=教育**→教育における貧困の連鎖と女兒への差別、高等教育格差
- **F=経済**→賃金格差がPT雇用で拡大、経営への女性参加率の低さ
- **G=政治参画**→議員に占める女性率の低さ、指導的地位への距離
- **H=制度**→国の制度的処理は進んだが、組織における女性の地位は？
- **I= 人権**→ほぼ全面的に女性への人権感覚がない
- **D/E=暴力と紛争**→家庭内暴力は法律ができたが、現実には未解決
一方、武力紛争へはアピールにとどまっている。
紛争とは別に自然災害への挑戦が浮上している

2015年 日本の時代の認識はどうか？

- **平等**＝ジェンダーの平等は進捗はあっても解消はされない
女性への認識→男性の社会観がいまだに正義の風潮が
貧富におけるジェンダ－格差は拡大傾向にある
- **開発**＝低開発国のレベルは着実に向上しており、トレンドとしては、
国内格差は広がる一方、国別格差が減少している
- **平和**＝武力紛争は、エスカレートし、被害者が増加中
人道支援と武器使用、日本の平和概念が世界の目に曝される
※地球環境の変化と共に、自然大災害が増加傾向を示している

2015以降の課題として 日本が経験をもとに提案すべき課題

- **女性と自然災害**＝地球温暖化、地殻変動などによる大規模な自然災害が多発する傾向にあると認識し、災害の被害を削減するために、
- 女性が緊急時の対応を含め、防災計画、再建計画などで政策決定のポジションにいるべきで、そのために必要な法的措置と研修機会の提供を行う(日本は自然災害多発国)
- **女性と高齢社会**＝高齢社会の問題は、日本は最先端国だが、中国をはじめ、ほとんどの国で抱える社会問題となっている。特に女性は介護など、伝統的に無償労働を求められる事例が多い。女性への年金問題、生活支援など被支援者としての平等を確保し、あわせて、女性の人権が守られる高齢者支援体制の策定を含めた、提言が必要だろう。(日本は高齢先進国として)
- **これはアフターMDGs すなわちSDGsにも提案したい。**

最後に

- 女性は、弱者として支援される立場から、人間として男性と共同して問題解決に取り組む立場へとはっきり軸足を置く必要がある。
- **途上国の女性導者が、「自分たちは支援を受ける国じゃない。自分たちで創り出す国です」といいました。(横浜・アフリカ会議)**
- 平和とは、「今日の生活が明日も続くこと・・・」パレスチナの女性が私の質問への応えです。(日本アラブ女性交流)
- **その生活をキープするために政治があるのでしょうか。**